



6
月

パストラル尼崎

水
無
月

No.132, 2023(R5)年5月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：峰田 康弘

◆6月の歳時記◆

『父のロイヤリティ』～父親像の変遷～



6月18日は父の日ですが、振り返ると昭和から令和まで、母親像より父親像のほうが大きく変化したようです。昭和の父親像といえは、寡黙でワンマン。風呂も一番風呂は当たり前。朝のトイレもドアの外で家族が悶絶しているような新聞を読みつつ我関せず。テレビのチャンネル権も独占。妻のことも「おい」呼ばわり。育児も家事もノータッチと、こう書きたすと今でいうパワハラ親父認定になるかもしれませんね。笑

でも、父親像の変遷を探る上で、時代の流行語を重ね合わせてみると、父親の気の毒な姿が浮かび上がってくるのです。たとえば・・・

高度経済成長下の1972年の流行語は「ワーカホリック」。住宅が郊外へと広がり始め、父親は長い通勤時間で家で過ごす時間が減少。仕事⇨人格となることで父親の威厳も成立してしまいました。

ところが1986年、「亭主元気で留守がいい」。妻が夫を揶揄する言葉として流行。女性の社会進出が進み、家庭においても女性の地位向上が進み、相対的に父親の立場も低下していきます。

1989年、札幌が紙切れのように飛び交っていたバブル絶頂期は、「24時間戦えますか」に象徴されていた仕事バリバリのお父さん像。しかし93年の「リストラ」で一挙にバブルが崩壊し、多くの会社員が人員削減や減俸などの憂き目にあつことになりました。泣 社会的にも漠然とした不安感が高まる中で、活躍の場を家庭の中に見出し始めたお父さん。

1996年は「夫婦別姓」。夫婦共働きも増え、父親も徐々に家事や育児に関わることを求められていきます。

2001年は「明日があるさ」がヒット。仕事に孤軍奮闘しながらも、あくまでも足元の家族に軸足を置いた父親の心情が描かれています。

そして日本はバブル崩壊後の長い景気低迷期に突入。父親と母親が、二馬力で家庭を支える事が当然の世の中に・・・

今の父親は優しく自分の時間も大切にし、おしゃれにも気を遣うなど、自分像を持った存在へと大きく変わっているようですが、一方で、仕事ではストレスを抱え、家では妻の方が強く、子どもにも気を遣うなど、その存在感は風前の灯。泣

先日、DVD鑑賞「プロジェクトX」の中で、家庭を犠牲にし、初めて国産自動車を作った技術者の番組を見ましたが、夫唱婦隨の夫婦の姿にいたく感動を覚えたのは昔人間の証拠でしょうか？汗



「OMAKASE」

アメリカの寿司ブームは今や「バブル」とも言える現象まで発展しているそうです。転機となったのは、寿司職人「小野二郎」のドキュメンタリー映画「二郎は鮓の夢を見る」。(二郎=安倍首相とオバマさんが会食したミシュラン三ツ星の「すきやばし次郎」の創業者のこと) それを親たアメリカの食通は、二郎を神格化された存在と受け止め、同時に「おまかせ」という寿司コースをありがたがるようになりました。このブームに乗ったのが高山雅氏がオーナーシェフを務める高級寿司レストラン「Masa」でした。この店は、ミシュラン初のアメリカ三ツ星寿司店に選ばれています。

以降「OMAKASE」という言葉は、そのまま英語になって独り歩きし価格も高騰！現在、カウンターで食べる1人前のコースが、なんと約15万円！汗

ではその味はというと、玉石混交だそうで、現在のプレミアム寿司は日本人がオーナーではなくアメリカ人。もちろん日本の寿司職人が指導し、本わさびを使用したりネタの産地を説明するなど寿司の基本から外れない味を提供している一方で、かなり怪しい内容を提供する店もあるようです。ウ～ン。バブルが弾けなければいいけど・・・

令和5年度

パストラルシニア大学

パストラルシニア大学がよいよ再開！今年度も多彩な講師をお迎えし充実した内容でお届けします。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年も皆勤賞めざし頑張りましょう。

*** 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)**
*** 当日は、学生証も忘れずに！**

第1回

「尼崎市の防災について」

- ・日時: 6月16日(金) 14時～15時
- ・場所: 多目的ホール
- ・講師: 尼崎市危機管理安全局災害対策課

災害時、私たちの住む尼崎がどのような状況になるのか？またとるべき準備、その時の行動などをお話し直します。

